

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子世田谷きぬた保育園
施設所在地	東京都世田谷区砧4丁目26-8
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

作る～色～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

昨年から続いている色の活動を継続させながらも、クラスの様子から「物をつくる」ことに楽しむ姿が増えていると感じた。用意された中で行うだけでなく、自分たちで作ったものを色と結び付け新しい活動を行っていききたいと感じた。

作ることで新しい発見を見つけて欲しい。考えて作ること、じっくりと素材に触れ、味わうことに意欲的に取り組んで欲しい。

2. 活動スケジュール

【子どもの興味から活動を始める】

5～6月

園内にある玩具や物を使い、転がるを楽しむ。絵の具遊びに転がすを混ぜて部屋中で転がす楽しさ、色がつく楽しさを味わった。

【講師来園 子どもの観察とテーマ設定】

6月12日 椎橋先生来園。講師を交えて打ち合わせ。子どもの様子を一緒に観察し、今年のテーマを設定。今年の子どもの興味ややってみたいこと、子どもが味わうことの楽しさを感じられるような内容について話す

講師との打ち合わせからイメージを膨らませ、スタッフが子どもたちと色水あそびを繰り返し行う

【講師来園 色遊びワークショップ】

7月11日

絵の具遊び(色遊びワークショップ)

椎橋先生が園に来園し子どもたちと一緒に色遊びのワークショップを行う。

園舎の壁やコンクリートの壁を塗る。

【クラス内での色あそびを展開する】

8月～1月

色遊びワークショップに刺激を受け、クラス内でのじみ絵、はじき絵を行う

タイダイ染めで運動会で着用するTシャツを好きな色で染めてみる

【講師来園 色遊びワークショップ②】

10月22日

椎橋先生来園し、色遊びワークショップ2回目実施。ボディペインティング的に様々な色の絵の具を使って色遊びを展開する。

【クラスでの色遊び・素材遊びの展開】

11月～1月

ダンボール、絵の具を使用した活動。絵の具で色の混合遊びにつながっていく。

クラスの中でダンボール素材遊びをし素材にぶれる時間を日々の中に取り入れた

【講師来園】

1月16日椎橋先生の研修・・・表現、造形遊びから園の現状を踏まえた研修

1月21日椎橋先生による色遊びワークショップ(3回目)ダンボール遊び(素材で遊ぶ)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

7月11日
・マスカータープ、シート、ゆび絵の具、筆、共同制作絵の具
9月8日
・Tシャツ15枚、染料セット、バケツ3個、洗濯洗剤、桶
10月22日
・シート、マスカータープ、テーブル1台、絵の具を入れるカップ6個、筆、段ボール(平面、立体)、段ボールをビニールで覆ったもの15個
1月21日
ダンボールを45枚程度
椎橋先生のワークショップ講師料
椎橋先生のスタッフ向け研修講師料

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

<p>【子どもの興味から活動を始める】 色に興味を持つようになった子どもたちの姿が見られる。発展させていく</p>
<p>【講師来園 子どもの観察とテーマ設定】 講師による子どもの観察。 保育士が固定概念を捨てて、子どもの姿を観察することで子どもが自由に活動を広げられるというアドバイスをもらう。昨年度の活動をベースにさらに発展させていけることを目指す。スタッフもそれを受けて、固定概念を外して子どもたちと色遊びを繰り返していく。</p>
<p>【講師来園 色遊びワークショップ①】 園の壁やコンクリートの壁に色を塗る提案に最初子どもも驚いていたが、活動を始めると子どもたちも固定概念がはずれ、集中して塗ったり遊びこむ姿が見られる</p>
<p>【クラス内での色あそびを展開する】 色遊びワークショップで子どもたちが固定概念を外したことに刺激を受け、担任もクラス内でにじみ絵、はじき絵、タイダイ染めを行う。</p>
<p>【講師来園 色遊びワークショップ②】 クラス内にラップ状の素材を張り巡らせ、子どもたちが全身を使って自由に絵の具を使ってダイナミックに遊ぶ。</p>
<p>【クラスでの色遊び・素材遊びの展開】 次回ワークショップのために準備した段ボールを使って、遊びが発展していく。 クラスの中でダンボール素材遊びを素材に触れる時間を日々の中に取り入れた</p>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

○1回目

・筆を使って壁に描くということが新鮮で始めは担任の様子をみたり、やってよいのか聞く姿があったが、好きなように遊んで良い事を伝えると筆を絵の具につけて描き始めた。広い範囲描けたが、壁に色がつくことを楽しみ自分の前の場所をたくさん塗り続けていた。色が増えたことで他の場所にも目を向ける様子があった。

・筆から絵の具がしたり落ちることに気がつき、筆を振ってみる子がいた。

・2色目の黄色がでると色が変化することに気がつき、「緑になった」「なんでだろう」と話す姿もあった

・壁に色を付けていると筆が壁にぶつかる音が鳴り、筆の柄の部分に壁にあてて音を出す子もいた。

○2回目

・クラスの活動を通してにじむ、はじくなどの素材の性質を楽しんできていたため、Tシャツを染めてみるということにとっても興味を高めていた。

・好きな色の染料をTシャツにつけるときは慎重に行う子や、指の力加減が難しくたくさんかける子がいた。色が付くと安心して進んで色を選んで染めていた。

・友だちのTシャツを見て自分のものと比べる姿もあり、染料を付ける中で話が弾む姿があった。

・洗濯洗剤で洗う・・・Tシャツを水の中でもんでいると色が出て水の色が変化していく様子を楽しんでいた。お友だちが行っているタライの色にも注目し洗濯をしたことでの水の色の変化を観察する様子もあった。Tシャツの変化には水から出すと全体を見て観察していた

・完成したものをみて、3色の色の混ざり合いからいろいろな色になっていることに気が付いた。色の模様ができ、お気に入りの部分や色、形を見つけ保育者や子ども同士で見せあい会話を楽しむ様子があった。

○3回目

・お部屋に絵の具を準備し、その前に大きな段ボールで作った食べ物がおいてある環境にした。廊下で遊びの説明を行ったが、食べ物には誰も興味を示さず、絵の具を行うお部屋に入って行く様子があった。

・すぐに筆を持ち壁に描き始めた。以前は大きく筆を動かし塗っているだけだったが、イメージしたものを描く姿もあり変化もみられた。

・大きな食べ物を部屋の床に敷き詰めるとその隙間の床のシートに筆で色をつける子がいた。食べ物に描こうとする様子はなく遊びが進んでいた。壁に立てかけたところ描き始めた。

・小さく穴が開いているところに筆を入れて絵の具で塗る姿があり、少し大きな穴が開いたものを立てかけて保育士が仕掛けてみたが、そちらには興味を示さず小さな穴に描くことを楽しんでいた。

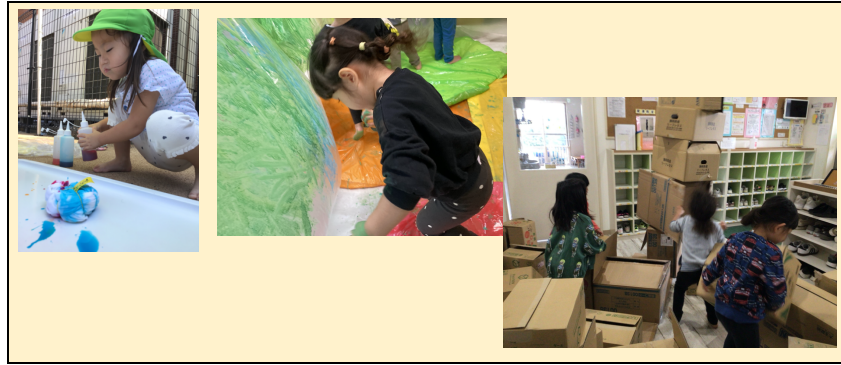
・壁に塗ることが落ち着くと段ボールをだした。立体の段ボールをいつもならつぶしてしまう場面でも、塗ることを楽しんでいた。

・色を塗り始めた際に以前は単色で塗ることを楽しんでいたが、今回はすぐに色が混ざって変化する様子を楽しんでいた。

・青と黄色を混ぜて緑になるとその上からまた青や黄色を塗ってみる姿もあり「青になった」とよく観察していた

・絵の具が入っている容器の中で色を混ぜ合い、完全に混ざると「青入れて」と大人に頼み、また混ざっていくようするを楽しみながら見ていた

・段ボールに色を塗り、接着剤に見立てて段ボールと段ボールをくっつけようとしていた。上に乗らないと平面の段ボールをちぎり、小さくして乗せようとしていた。乗せた上からまた色塗りを楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【取り組み前の姿】

・クラスで色を探究した子どもたちは色に対して興味を強く示している。すくわくの意図について再度椎橋先生から話があり、今のスタッフの動きや対応、考え方について見直した。
・普段遊びとして使用しない壁を使うということで子どもの見える場所や行動範囲が考えていたものとは違い、自分の場所というのを見つけていた。

【取り組みによる変化】

大人に聞いたり遠慮する姿だったが、講師とのワークショップで、自由にいいんだという子どもたち自身の気づき。

ダイナミック。固定概念を外す。友達のダイナミックな動きや大人の声掛けや姿をみて、子どもたちの遊び方はよりダイナミック

【気づき】

既成概念の枠の中にとらわれない保育を理解して実践していたつもりだったが、講師からの働きかけを子どもは自分たちで察知し、それを超える子どもたちの活動のダイナミックさを見せることに驚いた。

【今後への展望】

色遊びの中で既成概念を超えた子どもたちは様々な要望を自分たちから言ってくるようになった。大人である保育士はこれまで、子どもが汚れないようにとか時間がたりない、ということを念頭に置きながらかわりをこれまでではしていたが、活動を通じて、子どもたちの様子を観察しながら保育を展開していく、、、